

# 欠陥だらけのダム計画

## サルウィン川のタサンダム建設計画

「もしダムが建設されて川がせき止められたら、サルウィン川だけでなくシャンの歴史までもが流れを止めることになるでしょう。私たちの家、寺院、農場が水没するのと同時に私たちの文化も失われるでしょう」

- シャン人難民 (2000年)

ビルマ (ミャンマー) 北部、一般にはほとんど注目されないところにシャン州がある。先住民族、多様な森林や生物、そしてダムのない川としては東南アジア最長のサルウィン川のふるさとだ。

資源をめぐる紛争と内戦とが絶えないこの人里離れた地域で、ビルマの軍事政権とタイのエネルギー会社が東南アジアで最大規模となるタサンダム建設計画を進めている。ビルマ軍政がすぐに暴力行為を行う傾向にあることや、人権・環境基準を軽視しがちであることを鑑みると、タサンダムが建設されれば強制労働、強制移住、環境破壊そして反対運動への抑圧が起きるだろう。現時点では計画に関する住民参加はない上、既に強制労働やポータリング (軍のための荷物運び) がプロジェクトやその警備に関連して起きていることが知られている。タサンダム・プロジェクトは破壊的であるだけでなく、ビルマの將軍たちと一握りの民間企業に利益をもたらすだけで、ビルマやタイの人々のニーズや希望にこたえるものではない、無益で全く不要のものとなるだろう。

ビルマ軍政の悪名高い抑圧政策にもかかわらず、タサンダム建設に反対する活気ある運動が起きている。タサンダム建設を止めるのには今からでも間に合う。今ならサルウィン川を救うことができる。

## タサンダムに関する基礎知識

### ダムの規模

タサンダムは最大発電力が3300メガワット以上の水力発電ダムとなる予定で、費用は推定で最低30億ドル。高さは188メートル以上と、東南アジアで最高のダムになる。ダムによって水没する地域は少なくとも640平方キロメートル。

### 場所

サルウィン川はダムのない川としては東南アジアでは最長で、中国、ビルマ、タイ・ビルマ国境を経てアンダマン海に流れ込む。ダムの建設予定地はビルマのシャン州タサン。このダム建設によりサルウィン川流域だけでなく支流も水没する。

### 開発者

タイのGMS社 (Greater Mekong Subregion Power Co. Ltd.) がビルマ側のパートナーであるミャンマー経済株式会社 (MEC) とともにプロジェクトの可能性を調査中だ。ダムによって生産されるエネルギーの大部分は恐らくタイに輸出される。プロジェクト出資者はまだ不明であるが、費用額の大きさ

からみて外部からの出資は必至であるとみられる。

## 時期

タサングダムは建設前計画の最終段階にある。今後は詳細設計（D・D）、環境影響評価（EIA）そして資金調達計画が行われる予定。建設の日程は電力の販売に関する企業および政府間の交渉で決められる。建設資金を調達するには、ダムによって生産されるエネルギーを誰がいくらかで購入するかが決定される必要がある。

## 建設理由

タサングダムが生産するエネルギーはタイで使用されることになっている。GMS社がプロジェクト調査に入る直前、タイは2010年までに最高1500メガワットの電力をビルマから購入する可能性を調査するという覚書に調印している。タサングダムが販売可能な電力の生産を始めれば建設に関わった企業が収益を得ることになる。ビルマ軍政はそれらの企業の収益金に課税するか、自ら合併事業に加わることで収入を得ることになる。

## タサングダムの5つの欠陥

「諸プロジェクトやダムなどの公共事業……に関連して強制労働が（ビルマの）政府によって使用されたようだった」

国際労働機関（ILO）（1999年）

「私は兵士たちのためにダム建設現場の近くに建物を建てる手伝いをしました。賃金や報酬はなく、私は仕事をしたくありませんでした。しかし拒否すれば逮捕されることがわかっていました」

シャン人村民（2001年）

### 1 強制労働と暴力

ビルマでは、駐留する部隊の増加は地域の住民への非常な苦難を意味する。タサンではプロジェクトに関係する会社が調査を行うのに伴って駐留部隊が既に増えており、村民が強制労働やポーターリングに課せられている。

ビルマ軍政は開発プロジェクト実施に際して暴力行為を行い強制労働を使用することでよく知られている。悪名高いヤダナおよびイエタグン両パイプライン・プロジェクトの警備を行っていた軍の部隊は地域住民に対して強制労働、暴力、レイプ、強制移住、超法規的処刑を行った。ペグー管区やラカイン州、シャン州など、ビルマ国内のタサン以外のダム建設プロジェクトに関連して何千人もの強制労働者が動員されている。

タサングダム建設計画も同じ人権侵害のパターンをたどっている。事実、ビルマで強制労働があまりに広範で残虐、組織的に行われているため、ILOは構成団体（政府・労働者・雇用者）に対し、ビルマで

の強制労働に荷担するようなプロジェクトには関与しないよう呼びかけている。タイ政府とGMS社はILOの構成団体として、タサンダム建設計画が強制労働につながる事業だと認め、関与を止めるべきである。

## 2 環境的・文化的破壊

「サルウィン川は様々な種類の生物を支える雨林をはぐくんでいます。この森は私たちが自然災害や気候の変動から守ってくれるだけでなく、人々や動物が暑さをしのぐ場所ともなっています」

ビルマ国外に逃れたシャン人女性（2000年）

「一般的に、大規模なダムは川やその流域、水生生態系に多大な影響を与える。これはプラスよりもマイナスの影響であることが多く、生物の種目や生態系に取り返しのつかない損失につながるケースが多い」

世界ダム委員会（2000年）

サルウィン川は象徴的にも地理的にもシャン州の中心にあり、地域の生物多様性だけでなく農業、漁業そしてシャン州民の文化を支えている。タサンダムは生物多様性を縮小し生態系の崩壊をもたらすだろう。また、ダム建設は自然な洪水によって起きる下流域への栄養分補充などの恩恵を減少させるだろう。これに加え、ダム下流の川床の侵食、水没前のダム湖地域の森林伐採、ダム湖でのマラリア蚊の繁殖、ほかの資源を失った住民による森林の破壊などの悪影響が考えられる。ダム湖の重さによって周辺地域で大地震が起きる可能性も高くなるだろう。

ダム建設によって文化的・社会的に悪影響が出ることに議論の余地はない。プロジェクトの初期段階にある今でさえ既に、ビルマ軍は川に依存する地域住民の移動を制限し、毎日の暮らしや文化的慣習を妨害している。

## 3 非参加型の意味決定

「シャン州のタサンダムは住民参加が認められない極端なケースの一例です。住民参加に対するビルマ軍政の態度は一貫しています。反対意見を述べる者は誰でも虐待され殺害されるのです」

- サイウィンペイ、ビルマ国外に逃れたシャン州選出国會議員（2000年）

抑圧政策をとる軍政の下では、政府の方針に公然と反対するのは極めて危険で、命にかかわることもある。環境に関する政策決定に有意義な住民参加を試みるのは不可能で無駄なことである。タサンダムについて、プロジェクト地域の住民との協議は行われていない。1990年の総選挙でシャン州議席の最多数を獲得したシャン諸民族民主連盟（SNLD）もダム計画について連絡を受けていない。ビルマには法の支配がない。軍政は独断的で不透明な支配を行い、環境保護法規は整っておらず、法的救済への道も閉ざされている。

#### 4 残虐行為への出資

「軍政当局とその関係者が権力基盤を固めたのと同様に、(海外投資は彼らの)経済的地位を固める機会を与えたのです」

- アウンサンスーチー氏(1999年)

海外投資を通してビルマに流れ込む金は一般市民に届かず、逆に軍政が支配力を維持するのに用いられ、軍政からますます平和的な権力移行についての交渉の意志をそいでしまう。1990年から97年までの間、軍政の軍関連の出費は保健と教育への支出合計額の264%までに達した。ノーベル平和賞受賞者のアウンサンスーチー氏が率いる国民民主連盟(NLD)は1990年の総選挙で議席の80%以上を獲得したが、軍政は選挙結果を承認しなかった。NLDは軍政に対する国際的制裁措置を呼びかけ、民主主義が回復するまではビルマに投資しないよう海外企業に求めている。

タイ政府は商益を優先させるためにこの呼びかけを無視している。タイ企業のビルマとの材木取引や、ヤダナ・イエタグン両パイプライン・プロジェクトに関する国際借款団への参加などと同じように、タサンダム建設計画へのGMS社の関与はタイ企業が「建設的関与」の名の下、ビルマの政治的危機を利用して利益を得るパターンを踏襲している。企業側は建設的関与はビルマのためになっていると主張するが、そのような証拠はどこにもない。タサンダムはこのような「破壊的関与」とも言うべき、軍と投資企業だけが利益を得るプロジェクトの格好の例である。

#### 5 あまりにも不必要なエネルギー

「中央集中型の供給ネットワークから離れた地域では特に、分散型で小規模なシステム(例えばマイクロ水力発電、家庭用の太陽発電システム、風力やバイオマス・システム)が短期的、もしくは長期的に重要な可能性をもつ」

- 世界ダム委員会(2000年)

タサンダムの目的はタイにエネルギーを供給することだとされている。しかしながら、タイ政府がこれまで一貫してエネルギーの需要を過大評価してきたため、現在タイは供給過剰状態に陥っている。タサンダムからのエネルギーはヤダナ・イエタグン両パイプラインからのエネルギーと同様、全く不必要なのである。タサンダム計画はこの理由だけからでも廃棄されるべきだ。

大規模ダムの時代は終わりつつある。タイのエネルギー政策担当者は「大きいものはいいものだ」という神話を買っているが、大規模プロジェクトは変化する需要レベルに合わせる柔軟性に欠け、この欠点は生産コストの中央集中という利点よりも深刻だ。需要サイド管理システム(DSM: Demand-side management)、レシプロエンジンや風力・太陽・バイオマス・燃料電池ほか再生可能なエネルギー源による小規模発電などの代替システムが購入可能な価格で既に存在する。タイのエネルギー政策担当者はこれらをもっと真剣に検討するべきである。

### タサンダム建設への反対運動

「わたしたちは川や水資源の民営化に反対します。また、ビルマのような非合法で抑圧的な政府が川や水資源をコントロールすることにも反対します。水の使用権は基本的な人権です。川は民間セクターや軍事政権ではなく、地域住民のものであるべきです」

パクムン宣言（RWESEA構成団体および賛同団体が署名、2000年）

タサングム建設に反対する者が直面する障害は相当のものである。軍政の独裁主義的支配は少数民族の自治への希望を砕き、彼らの支配下では反対の声をあげることは自殺的行為となってしまう。プロジェクトの出資に関しては不透明性が蔓延し、政府や企業がとる「建設的関与」政策には彼らの私利私欲が浸透している。しかしながら、少数民族団体や国際団体がタサングム建設に反対する力強い声をあげることに成功していることも事実だ。この声は各国政府、金融機関、タイ・米国・日本・ヨーロッパの国民の良心へのアピールでもある。タサングムへの関与は避けるべきである。この悲劇を止めるのにあなたの協力が求められている。シャン州の人々はタサングム建設という生活や環境に対する脅威に反対するために非常なリスクを冒さなければならない。彼らは私たちのサポートを必要としている。

### 詳しい情報を得るための連絡先一覧

#### 地球の権利インターナショナル（EarthRights International）

地球の権利インターナショナルは法の力と人々の力とを合わせて人権と環境とを守るNGO。

連絡先： infoasia@earthrights.org（www.earthrights.org）

日本語連絡先： yuki@earthrights.org

#### シャン・サパワ環境団体（Shan Sapawa Environmental Organization）

最近発足したサパワはシャン州の環境保護に専念する初のシャン人団体。

連絡先： sh\_sapawa@hotmail.com

#### サルウィン・ウォッチ（Salween Watch）

1998年に発足したサルウィン・ウォッチはサルウィン川の将来を懸念するビルマの草の根団体の連合体。

連絡先： salweenwatch@hotmail.com

#### Rivers Watch East and Southeast Asia

RWESEAは東南アジア地域の大型ダムによる悪影響を一般に知らせるための仕事をしている。

連絡先： contact@hk-sanxia.org

#### メコン・ウォッチ（日本）

メコン・ウォッチは1993年にできた日本の団体で、サルウィン川を含むメコン川流域で日本が関わる開発計画の社会面・環境面への影響を監視・調査している。

連絡先： mekong-w@path.ne.jp（www.jca.apc.org/mekongwatch）

**国際河川ネットワーク（IRN：International Rivers Network）**

IRNは川や流域を守るために活動する地域の人々をサポートしている。

連絡先： [irn@irn.org](mailto:irn@irn.org) ([www.irn.org](http://www.irn.org))

**世界ダム委員会（World Commission on Dams）**

[www.dams.org](http://www.dams.org)

**国際労働機関（ILO）**

[www.ilo.org](http://www.ilo.org)